

# 2024年度第3四半期 決算説明資料

---

2025年2月12日

出光興産株式会社

# 目次

---

- 公表内容のハイライト
- 2024年度第3四半期決算
- 2024年度通期業績予想の修正
- 中期経営計画の進捗にかかわるトピックス
- 参考資料
  - ✓ 決算補足資料
  - ✓ 数量データ
  - ✓ 原油・製品市況推移、製油所稼働率等
  - ✓ 事業概要

---

## ■公表内容のハイライト

# 2024年度 第3四半期決算

## ■ 概要

- ✓ 在庫影響除きの営業 + 持分損益は、石炭価格の下落や基礎化学品セグメントにおける数量減少及び製品市況悪化等により、前年比▲656億円の減益
- ✓ 在庫影響込みの営業 + 持分損益は、上記に加え、2024年度の原油価格下落による在庫影響反転により前年比▲1,618億円の減益
- ✓ 当期純利益は、5月公表見通しを超過

[億円]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	通期予想 (5/14公表)
営業 + 持分損益	3,073	1,454	▲ 1,618	1,850
(在庫影響)	(+731)	(▲231)	(▲962)	(0)
(在庫影響除き)	(+2,341)	(+1,685)	(▲656)	(1,850)
当期純利益	2,391	1,275	▲ 1,116	1,250
(在庫影響除き)	(+1,883)	(+1,435)	(▲449)	(1,250)

# 2024年度 通期業績予想及び株主還元

## ■ 通期業績予想

- ✓ 基礎化学品及び電力・再エネセグメントは5月公表予想を下回るものの、堅調な国内マージン及び円安影響等を反映し、業績予想を上方修正

[億円]

	5/14公表	今回予想	増減
営業＋持分損益	1,850	2,200	+350
(在庫影響)	(0)	(0)	－
(在庫影響除き)	(1,850)	(2,200)	(+350)
当期純利益	1,250	1,450	+200
(在庫影響除き)	(1,250)	(1,450)	(+200)

## ■ 株主還元

- ✓ 現中期経営計画の株主還元方針、適正自己資本の考え方、および今回修正した24年度業績予想に基づき、700億の自己株式を取得
- ✓ 200億円は株主還元を目的として、500億円は自己資本の適正化を目的として取得
- ✓ 自己資本の適正化を目的とした自己株式の取得については、2024年5月公表分を併せて、方針として示した1,000億円の買付けが完了する予定

---

## ■ 2024年度 第3四半期決算

# トピックス

## ■ 燃料油需要及び販売の動向

- ✓ 揮発油は燃費改善等により、軽油は物流効率化や荷動きの停滞により、需要が減少
- ✓ ジェット燃料は、エアライン向け数量は前年並み。官公庁向け入札販売等の要因により前年比では減少

	22年度	23年度	24年度3Q
主燃料 (揮発油)	100.9% (101.3%)	97.5% (97.9%)	98.4% (98.2%)
ジェット燃料	136.8%	105.7%	97.2%

※当社販売伸長率(前年比)

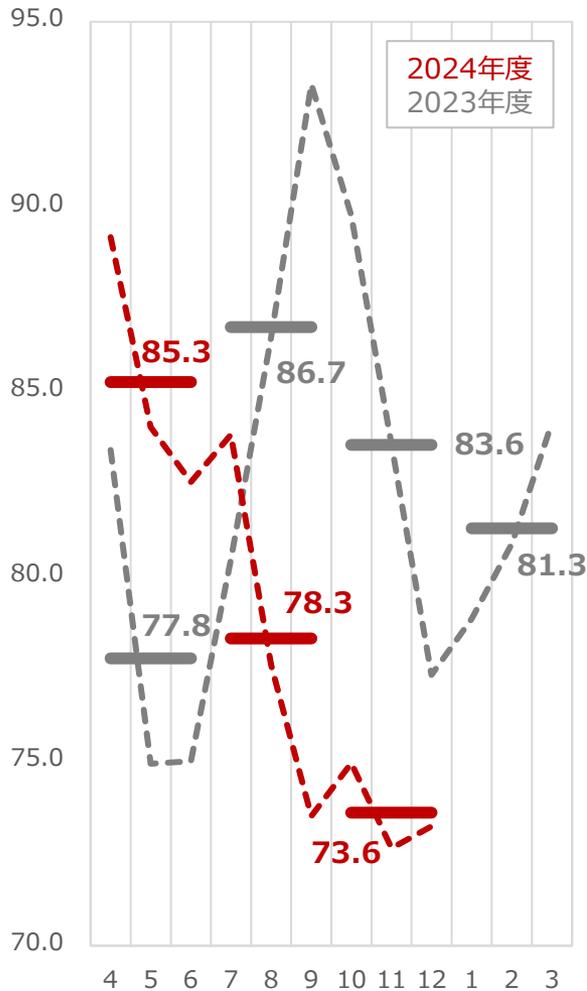
## ■ ベトナム ニソン製油所の状況

- ✓ 24年度1-3Q累計実績は高稼働等により営業黒字。下期を通じた製品マージンの悪化により通期では営業赤字となる見込
- ✓ なお、23年度の貸倒引当金計上により、24年度の連結決算上の持分損益はゼロ
- ✓ 25年度の最終黒字化に向け、スポンサー間の建設的協議を継続

# 事業環境

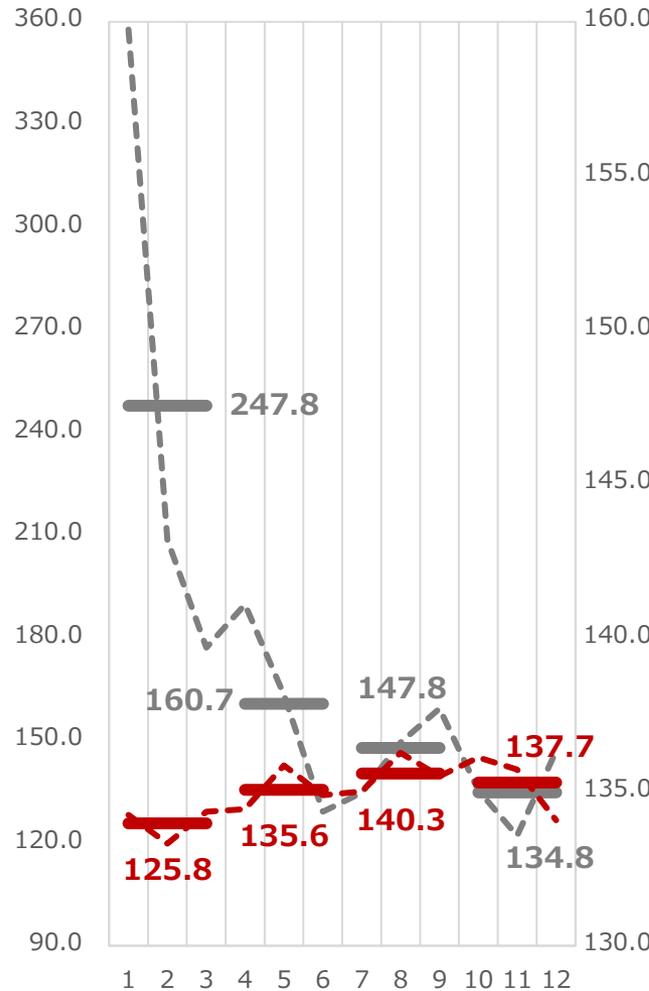
## ドバイ原油価格

[USD/バレル]



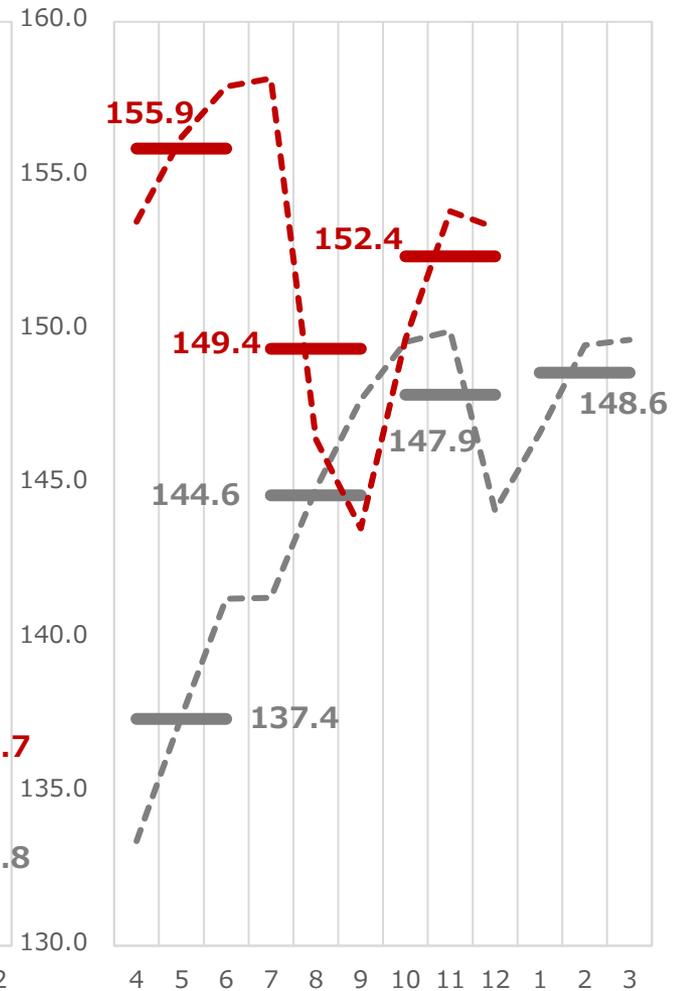
## 豪州一般炭スポット価格

[USD/トン]



## 為替レート(USD)

[円/USD]



# 決算概要

## ■ 原油、石炭価格および為替レート

[USD/バレル、USD/トン、円/USD]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
ドバイ原油価格	82.7	79.1	▲ 3.6	▲ 4.4%
ブレント原油価格*	82.1	82.8	+0.7	+0.9%
豪州一般炭スポット価格*	185.5	133.9	▲ 51.6	▲ 27.8%
為替レート	143.3	152.6	+9.3	+6.5%

\*ブレント原油価格及び豪州一般炭価格は1-9月平均

## ■ 連結損益計算書ハイライト

[億円]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
売上高	64,023	68,765	+4,742	+7.4%
営業利益 (内 在庫評価損益)	2,937 (+731)	1,233 (▲231)	▲ 1,704 (▲962)	▲ 58.0% -
持分法投資損益	136	222	+86	+63.6%
営業+持分 (在庫影響除き)	3,073 (+2,341)	1,454 (+1,685)	▲ 1,618 (▲656)	▲ 52.7% (▲28.0%)
経常利益	3,273	1,658	▲ 1,615	▲ 49.3%
特別損益	▲ 20	11	+30	-
当期純利益 (在庫影響除き)	2,391 (+1,883)	1,275 (+1,435)	▲ 1,116 (▲449)	▲ 46.7% (▲23.8%)

# セグメント別情報

## ■ 営業利益 + 持分法投資損益

[億円]

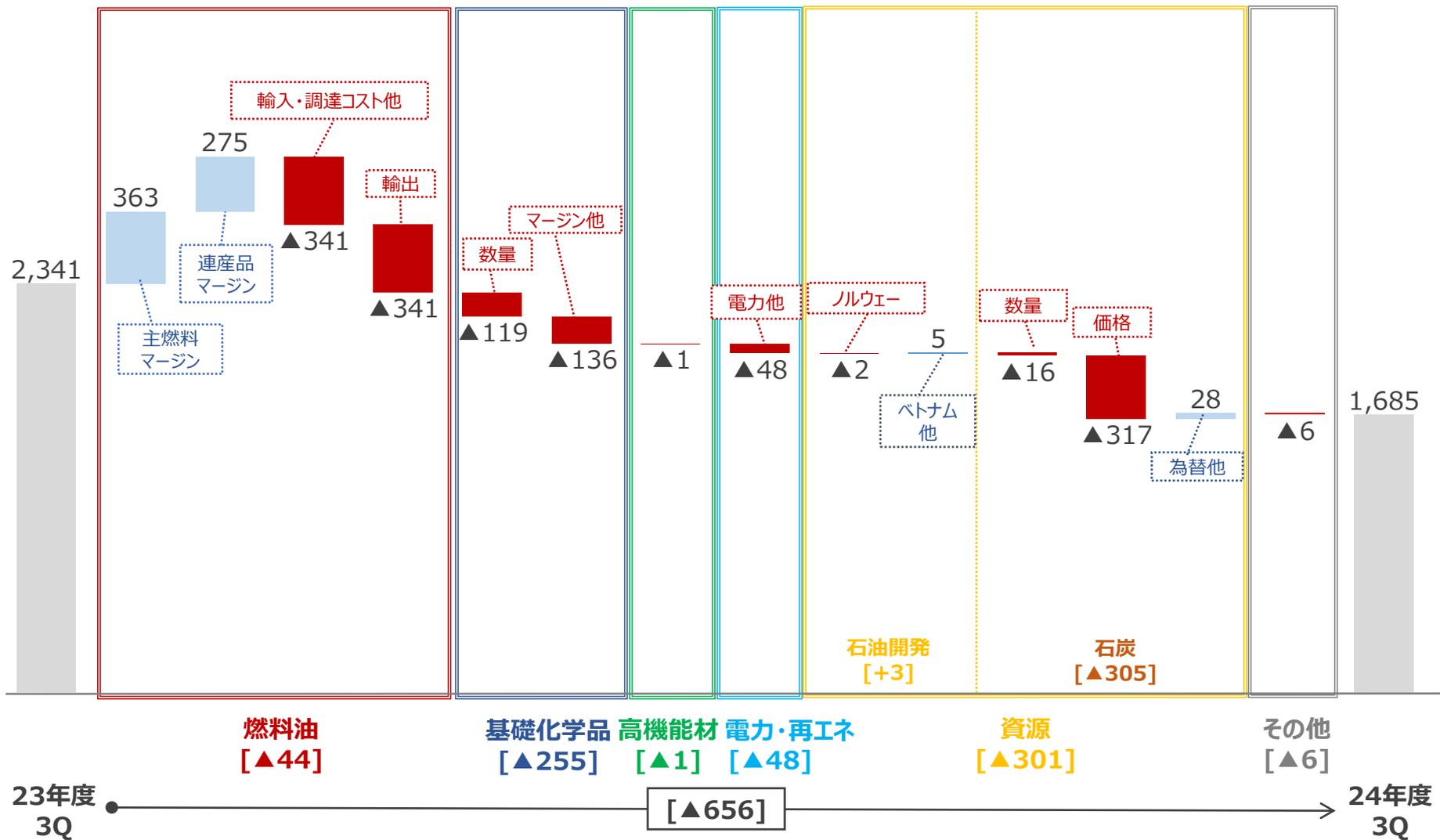
	23年度3Q	24年度3Q	増減	
燃料油	1,872	866	▲ 1,006	▲ 53.8%
(在庫影響除き)	(1,141)	(1,096)	(▲44)	(▲3.9%)
基礎化学品	214	▲ 42	▲ 255	—
高機能材	228	227	▲ 1	▲0.5%
電力・再生可能エネルギー	▲ 23	▲ 71	▲ 48	—
資源*	897	596	▲ 301	▲ 33.6%
(内 石油開発)	(133)	(136)	(+3)	(+2.6%)
(内 石炭)	(764)	(460)	(▲305)	(▲39.8%)
その他	▲ 115	▲ 121	▲ 6	—
セグメント合計	3,073	1,454	▲ 1,618	▲ 52.7%
(在庫影響除き)	(2,341)	(1,685)	(▲656)	(▲28.0%)

\*資源に含まれる石油開発（うちIIN）及び石炭は12月決算

# セグメント別情報

## ■ 営業利益 + 持分法投資損益増減分析 (在庫影響除き、前年比)

[億円]

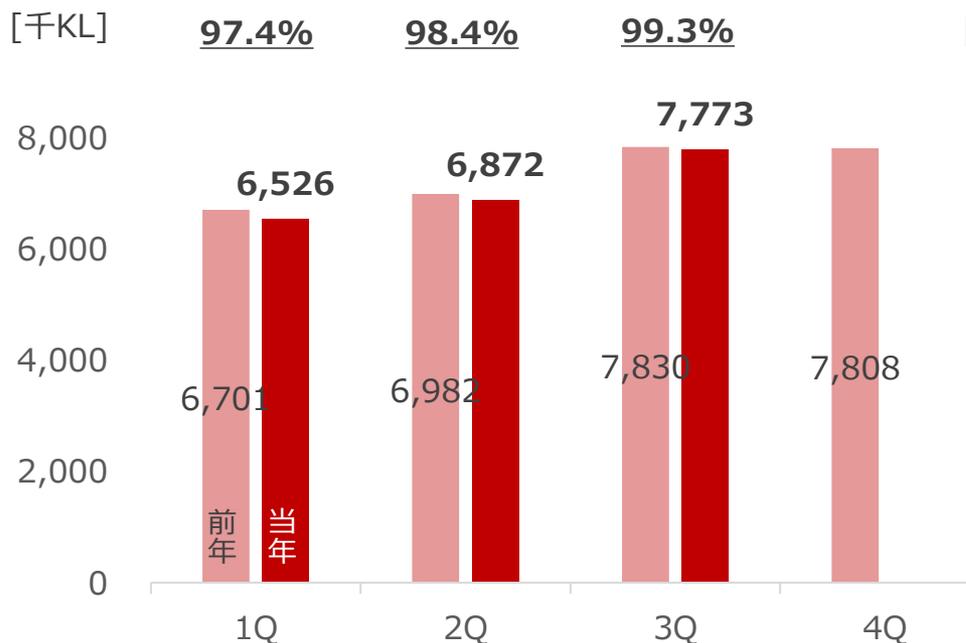


# セグメント別情報

【燃料油】 前年比▲44億円 (23年度3Q : 1,141億円 → 24年度3Q : 1,096億円)

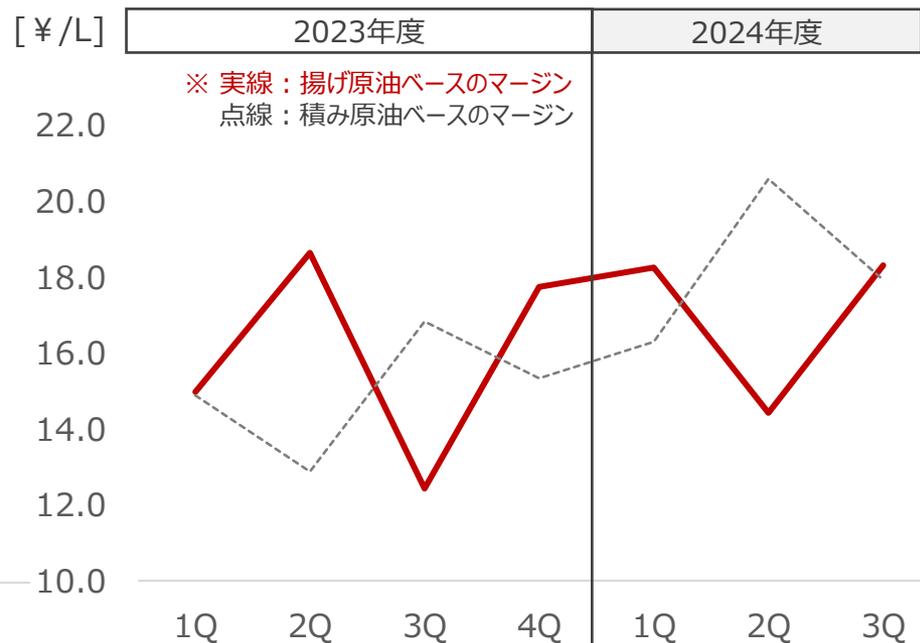
## 〈燃料油販売数量前年比(主燃料)〉

(前年比)



## 〈国内石油製品マージン\*推移〉

\*ガソリン・軽油・灯油・A重油の加重平均マージン(国内スポット-原油)



✓ 堅調な国内マージンの一方、トラブル影響や海外マージン悪化に伴う輸出数量減少等により、前年比では減益

# セグメント別情報

[基礎化学品] 前年比▲255億円 (23年度3Q : 214億円 ➡ 24年度3Q : ▲42億円)

- ✓ 販売数量は、装置トラブル及び定期修繕により減少
- ✓ 製品マージンは、主にPX, MXにおいて悪化

[USD/トン]

製品	23年度3Q		24年度3Q		増減	
	製品価格	マージン	製品価格	マージン	製品価格	マージン
PX	1,039	403	940	270	▲99	▲133
MX	934	297	833	162	▲101	▲135
SM	1,034	398	1,122	452	+88	+54

[高機能材] 前年比▲1億円 (23年度3Q : 228億円 ➡ 24年度3Q : 227億円)

- ✓ 潤滑油は、販売ポートフォリオの改善等により増益
- ✓ 機能化学品は、定期修繕等による数量減により減益
- ✓ 機能舗装材は、原料となる重油留分価格上昇等により減益

[電力・再エネ] 前年比▲48億円 (23年度3Q : ▲23億円 ➡ 24年度3Q : ▲71億円)

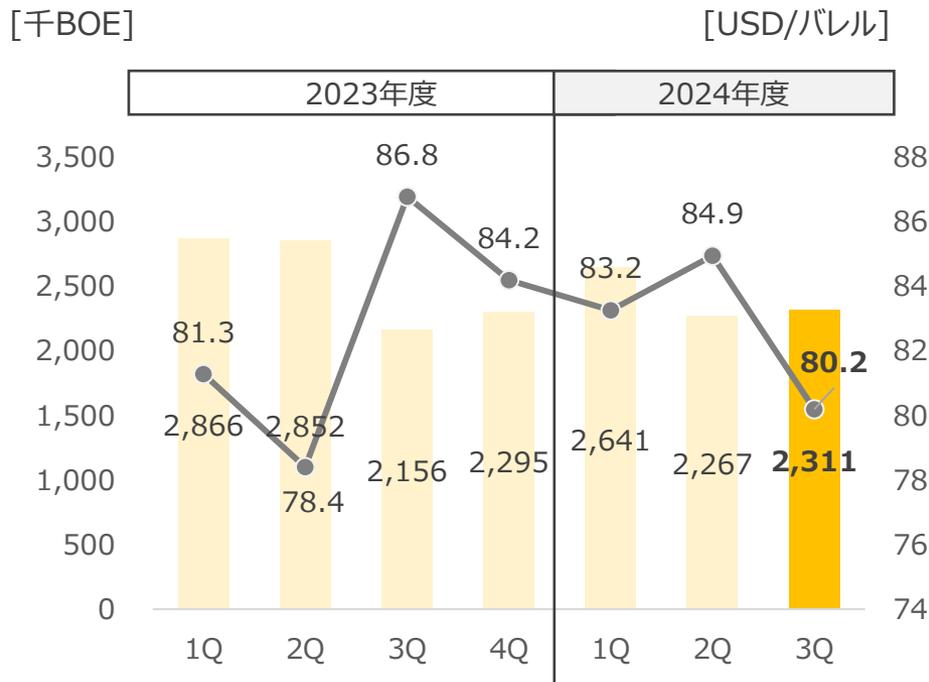
- ✓ トラブルに伴う調達コスト増及びバイオマス原料コスト上昇等により減益
- ✓ ソーラーフロンティアは、構造改革に伴うコスト低減等により収支改善
- ✓ 海外事業は、価格要因等により減益

# セグメント別情報

## [石油開発] 前年比+3億円

(23年度3Q : 133億円 → 24年度3Q : 136億円)

### 〈原油・ガス生産数量・ブレント原油価格推移〉



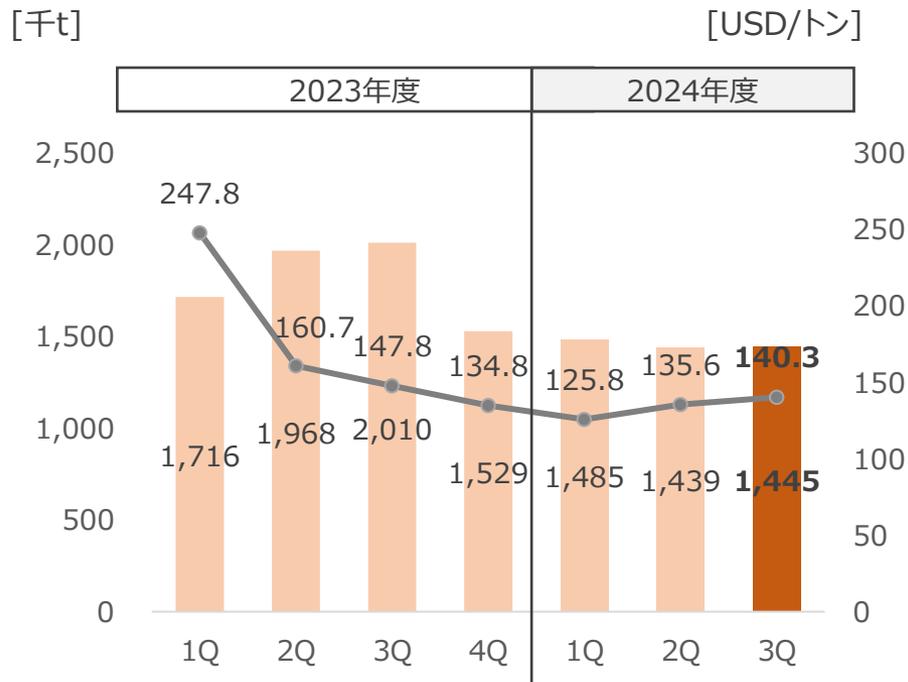
- ✓ 生産数量は減少したものの、主に円安影響により増益

※数値は資源開発関係会社の保有権益、持分割合ベース

## [石炭] 前年比▲305億円

(23年度3Q : 764億円 → 24年度3Q : 460億円)

### 〈石炭生産数量・豪州一般炭スポット価格推移〉



- ✓ 石炭市況の下落に伴う価格要因等で減益

※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

# 財務状況

[億円]

	24/3末	24/12末	増減		24/3末	24/12末	増減
現金・預金	1,393	1,885	+492	流動負債計	21,925	23,717	+1,792
売掛債権 たな卸資産等	27,775	28,117	+342	固定負債計	10,073	9,156	▲ 917
流動資産計	29,168	30,002	+834	負債合計	31,998	32,873	+875
有形固定資産	13,626	13,806	+180	株主資本 その他の包括利益累計	17,999	18,412	+413
その他固定資産	7,329	7,677	+348	非支配株主持分	126	200	+74
固定資産計	20,955	21,483	+528	純資産計	18,125	18,612	+487
総資産計	50,123	51,485	+1,362	負債・純資産計	50,123	51,485	+1,362

ネットD/Eレシオ	0.67	0.65	▲0.02
有利子負債計	13,427	13,763	+337
自己資本比率	35.9%	35.8%	▲0.1%

---

## ■ 2024年度 通期業績予想の修正

# 2024年度通期業績予想

## ■ 原油、石炭価格および為替レート

[USD/バレル、USD/トン、円/USD]

	5/14公表	今回予想	増減		1月以降前提
ドバイ原油価格	85.0	79.3	▲ 5.7	▲ 6.7%	80.0
ブレント原油価格*	85.0	79.9	▲ 5.1	▲ 6.0%	—
豪州一般炭スポット価格*	125.0	134.7	+9.7	+7.8%	—
為替レート	145.0	151.9	+6.9	+4.8%	150.0

\*ブレント原油価格及び豪州一般炭価格は1-12月平均

## ■ 連結損益計算書ハイライト

[億円]

	5/14公表	今回予想	増減	
売上高	87,000	92,000	+5,000	+5.7%
営業利益	1,690	2,040	+350	+20.7%
（内 在庫評価損益）	(0)	(0)	—	—
持分法投資損益	160	160	—	—
<b>営業+持分</b>	<b>1,850</b>	<b>2,200</b>	<b>+350</b>	<b>+18.9%</b>
<b>（在庫影響除き）</b>	<b>(1,850)</b>	<b>(2,200)</b>	<b>(+350)</b>	<b>(+18.9%)</b>
経常利益	1,880	2,450	+570	+30.3%
特別損益	▲ 120	▲ 230	▲ 110	—
<b>当期純利益</b>	<b>1,250</b>	<b>1,450</b>	<b>+200</b>	<b>+16.0%</b>
<b>（在庫影響除き）</b>	<b>(1,250)</b>	<b>(1,450)</b>	<b>(+200)</b>	<b>(+16.0%)</b>

# セグメント別情報

## ■ 営業利益 + 持分法投資損益

[億円]

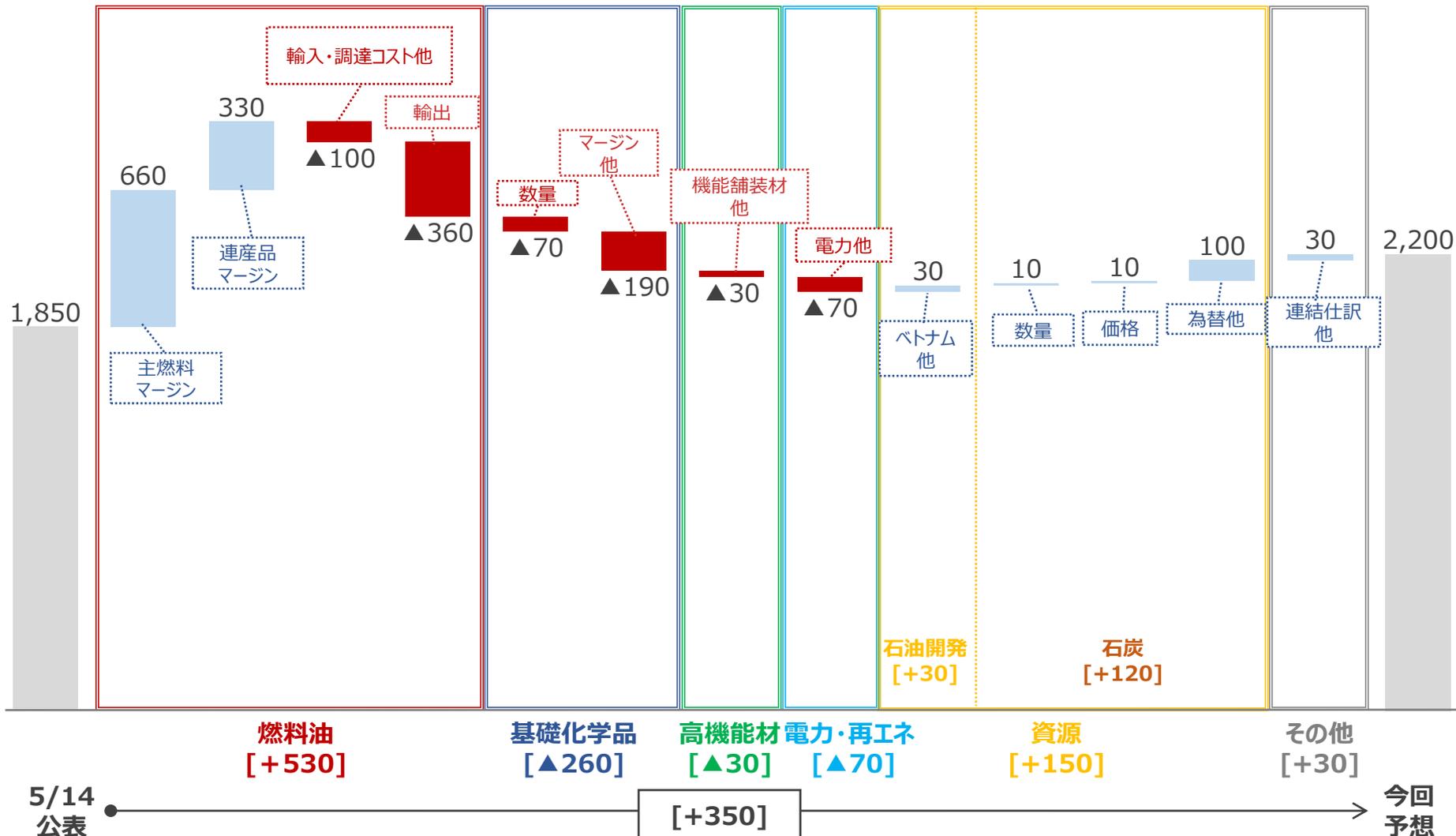
	5/14公表	今回予想	増減	
燃料油	1,020	1,550	+530	+52.0%
(在庫影響除き)	(1,020)	(1,550)	(+530)	(+52.0%)
基礎化学品	260	0	▲ 260	▲ 100.0%
高機能材	310	280	▲ 30	▲ 9.7%
電力・再生可能エネルギー	▲ 30	▲ 100	▲ 70	—
資源	570	720	+150	+26.3%
(内 石油開発)	(120)	(150)	(+30)	(+25.0%)
(内 石炭)	(450)	(570)	(+120)	(+26.7%)
その他	▲ 280	▲ 250	+30	—
セグメント合計	1,850	2,200	+350	+18.9%
(在庫影響除き)	(1,850)	(2,200)	(+350)	(+18.9%)

※資源セグメントは12月決算

# セグメント別情報

## ■ 営業利益 + 持分法投資損益増減分析 (在庫影響除き、5/14公表比)

[億円]



## セグメント別情報

[燃料油] 前环比+530億円 (5/14公表：1,020億円 ➡ 今回予想：1,550億円)

- ✓ 輸入・調達コスト増加や輸出数量減少の一方、堅調な国内マージンを主因として増益

[基礎化学品] 前环比▲260億円 (5/14公表：260億円 ➡ 今回予想：0億円)

- ✓ アロマ市況悪化及びトラブル影響による販売数量減少等により減益

[USD/トン]

製品	5/14公表		今回見通し		増減	
	製品価格	マージン	製品価格	マージン	製品価格	マージン
PX	1,060	390	920	260	▲140	▲130
MX	940	270	820	160	▲120	▲110
SM	1,110	440	1,110	450	±0	+10

[高機能材] 前环比▲30億円 (5/14公表：310億円 ➡ 今回予想：280億円)

- ✓ 機能舗装材は、原料となる重油留分価格の上昇等により減益
- ✓ 機能化学品は、トラブルによる販売数量減少等により減益
- ✓ 潤滑油は、販売ポートフォリオ改善等により増益

## セグメント別情報

[電力・再エネ]前回比▲70億円 (5/14公表：▲30億円 ➡ 今回予想：▲100億円)

- ✓ 電力事業は、トラブルに伴う調達コスト増及びバイオマス原料コスト上昇等により減益
- ✓ ソーラーフロンティアは、計画並み
- ✓ 海外事業は、価格要因等により減益

[石油開発]前回比+30億円 (5/14公表：120億円 ➡ 今回予想：150億円)

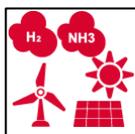
- ✓ 為替影響等により増益

[石炭]前回比+120億円 (5/14公表：450億円 ➡ 今回予想：570億円)

- ✓ 為替影響や石炭価格上昇等により増益

## ■ 中期経営計画の進捗状況

※中期経営計画の進捗にかかわるトピックス（次頁以降）のマークは以下の事業領域を指す



一歩先のエネルギー



多様な省資源・  
資源循環ソリューション



スマートよろずや

# 中期経営計画の進捗にかかわるトピックス

## ■ 豪州でバナジウム事業を推進するVecco社へ過半出資 クリティカルミネラル事業へ本格進出

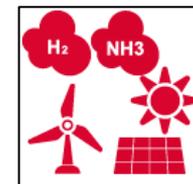


- ✓ 豪州でバナジウム鉱山の開発・バナジウム電解液の製造等を推進するVecco社の持ち分比率を51%へ引き上げ
- ✓ 自社鉱山からの五酸化バナジウム精製に向け、2025年から鉱山開発に対する詳細FS（Feasibility Study：事業化調査）を開始。2026年からの採掘施設の建設、および2027年からの操業開始を目指す

（当社開示文書リンク）

[https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/241218\\_2.pdf](https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/241218_2.pdf)

## ■ 持続可能な航空燃料(以下「SAF」)原料として期待される ポンガミアの試験植林を豪州クイーンズランド州にて開始



- ✓ SAFをHEFA技術にて生産する際の原料として期待される非可食油糧作物、ポンガミアの試験植林を1月中旬から豪州クイーンズランド州で開始

### ■ ポンガミアの特徴

- ・インド、東南アジア、豪州北部などの熱帯、亜熱帯エリアに自生
- ・強い日差しや干ばつに強く、海岸近くの塩分が比較的高い土壌でも栽培が可能
- ・植物の生育に必要な窒素を栄養として蓄えることができるため、肥料が少なくても栽培が可能  
また、蓄えた栄養による土壌改良の効果を有する
- ・食料用途と競合しない非可食の油糧作物
- ・単位面積あたりの油収量が他の油糧作物と比較して多いため、エネルギー供給量が多く、エネルギー供給量単位あたりのCO<sub>2</sub>排出量（CI値）は大豆の半分以下

（当社開示文書リンク）

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2024/250109.pdf>

---

## ■ 参考資料

## 決算関連

## ■ セグメント別売上高

[億円]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
燃料油	51,428	57,605	+6,177	+12.0%
基礎化学品	4,466	4,307	▲ 159	▲ 3.6%
高機能材	3,821	3,809	▲ 12	▲ 0.3%
電力・再生可能エネルギー	1,085	959	▲ 126	▲ 11.6%
資源*	3,180	2,002	▲ 1,178	▲ 37.0%
(内 石油開発)	(285)	(310)	(+25)	(+8.8%)
(内 石炭)	(2,895)	(1,693)	(▲1,203)	(▲41.5%)
その他	43	83	+40	+94.0%
セグメント合計	64,023	68,765	+4,742	+7.4%

\*資源に含まれる石油開発（うちIIN）及び石炭は12月決算

## 決算関連

## ■ セグメント利益四半期推移（累計・在庫影響除き）

[億円]

	23年度				24年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
燃料油セグメント	184	1,050	1,141	1,672	478	628	1,096
持分法投資損益	49	38	69	99	51	108	153
基礎化学品セグメント	▲ 14	120	214	220	75	34	▲ 42
持分法投資損益	▲ 6	▲ 10	▲ 18	▲ 40	▲ 3	3	10
高機能材セグメント	55	134	228	276	78	160	227
持分法投資損益	▲ 2	▲ 1	4	3	1	3	3
電力・再生可能エネルギーセグメント	▲ 5	▲ 4	▲ 23	▲ 76	▲ 30	▲ 58	▲ 71
持分法投資損益	3	3	8	3	▲ 3	▲ 6	▲ 7
資源セグメント							
-石油開発	57	105	133	191	65	99	136
持分法投資損益	35	53	73	103	31	56	71
-石炭	347	593	764	978	183	328	460
持分法投資損益	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 1	▲ 0	▲ 1	▲ 2
その他セグメント	▲ 51	▲ 52	▲ 115	▲ 156	▲ 28	▲ 51	▲ 121
持分法投資損益	0	0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 2	▲ 7
<b>セグメント合計</b>	<b>574</b>	<b>1,946</b>	<b>2,341</b>	<b>3,106</b>	<b>822</b>	<b>1,140</b>	<b>1,685</b>
<b>持分法投資損益</b>	<b>78</b>	<b>83</b>	<b>136</b>	<b>167</b>	<b>76</b>	<b>161</b>	<b>222</b>

## 決算関連

## ■ セグメント利益四半期推移（Q別・在庫影響除き）

[億円]

	23年度				24年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
燃料油セグメント	184	866	90	531	478	149	469
持分法投資損益	49	▲ 10	31	30	51	57	44
基礎化学品セグメント	▲ 14	134	94	7	75	▲ 41	▲ 76
持分法投資損益	▲ 6	▲ 4	▲ 8	▲ 22	▲ 3	6	7
高機能材セグメント	55	78	94	48	78	82	67
持分法投資損益	▲ 2	1	5	▲ 1	1	2	0
電力・再生可能エネルギーセグメント	▲ 5	1	▲ 19	▲ 53	▲ 30	▲ 28	▲ 13
持分法投資損益	3	0	4	▲ 5	▲ 3	▲ 3	▲ 0
資源セグメント							
-石油開発	57	48	28	59	65	34	37
持分法投資損益	35	18	21	30	31	26	15
-石炭	347	246	172	214	183	146	132
持分法投資損益	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 2
その他セグメント	▲ 51	▲ 1	▲ 63	▲ 41	▲ 28	▲ 23	▲ 71
持分法投資損益	0	0	▲ 0	0	▲ 0	▲ 2	▲ 5
<b>セグメント合計</b>	<b>574</b>	<b>1,371</b>	<b>396</b>	<b>764</b>	<b>822</b>	<b>319</b>	<b>545</b>
<b>持分法投資損益</b>	<b>78</b>	<b>5</b>	<b>52</b>	<b>32</b>	<b>76</b>	<b>85</b>	<b>60</b>

## 感応度

## ■ 主要前提の変動による主な営業利益影響（4Q）

分類	指標	4Q前提	変動幅	セグメント	収支影響 (億円)	主な影響
在庫影響 除き	原油価格	80.0\$/bbl	±10\$/bbl	燃料油	±320	タイムラグ、 自家燃
	シンガポール製品マージン	—	±5\$/bbl		±50	輸出
	為替レート	150.0¥/\$	±5¥/\$		±80	タイムラグ、 自家燃
在庫影響	原油価格	80.0\$/bbl	±10\$/bbl	燃料油	±560	
	為替レート	150.0¥/\$	±5¥/\$		±140	

※燃料油セグメントは、国内製油所で生産される製品についてのみの影響であり、上記の他、海外店の販売に伴う収支変動の影響を受けます

## 販売数量実績

## ■ 燃料油セグメント

[千KL,%]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
ガソリン	9,699	9,529	▲ 170	▲ 1.8%
ナフサ	277	339	+62	+22.3%
ジェット燃料	1,882	1,829	▲ 53	▲ 2.8%
灯油	1,940	1,768	▲ 171	▲ 8.8%
軽油	7,651	7,687	+35	+0.5%
A重油	2,223	2,187	▲ 36	▲ 1.6%
C重油	1,761	1,315	▲ 446	▲ 25.3%
<b>国内燃料油販売計</b>	<b>25,433</b>	<b>24,654</b>	<b>▲ 779</b>	<b>▲ 3.1%</b>
輸出燃料油	5,435	4,058	▲ 1,377	▲ 25.3%
<b>燃料油販売計</b>	<b>30,868</b>	<b>28,712</b>	<b>▲ 2,156</b>	<b>▲ 7.0%</b>

※ジェット燃料及びC重油に含むボンド輸出数量は輸出燃料油に含めて表示

## 販売数量実績

## ■ 基礎化学品セグメント

[千t,%]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
基礎化学品	2,606	2,198	▲ 408	▲ 15.7%

## ■ 高機能材セグメント

[千KL,千t,%]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
潤滑油	855	780	▲ 75	▲ 8.7%
機能化学品	501	346	▲ 156	▲ 31.0%

※潤滑油は海外ライセンス販売先を含む

## ■ 電力・再生可能エネルギーセグメント

[百万kwh,%]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
電力小売販売量	1,433	1,272	▲ 160	▲ 11.2%

## 生産数量実績

## ■ 資源セグメント (ガス・石油生産量)

[千BOED,%]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
ベトナム	14.6	13.7	▲ 0.9	▲ 6.3%
ノルウェー	14.2	12.6	▲ 1.6	▲ 11.4%
生産量合計 (千BOED)	28.8	26.3	▲ 2.5	▲ 8.8%
生産量合計 (千BOE)	7,874	7,219	▲ 655	▲ 8.3%

※数値は資源開発子会社の保有権益、持分割合ベース

※12月決算につき、23年度3Qは1-9月の数量。24年度3Qは、ノルウェーは1-9月の数量、ベトナムは決算月変更により4-12月の数量

## ■ 資源セグメント (石炭生産量)

[千t,%]

	23年度3Q	24年度3Q	増減	
エンシャム	1,689	—	▲ 1,689	—
マッセルブルック	15	—	▲ 15	—
ボガブライ	3,990	4,369	+379	+9.5%
<b>豪州石炭 合計</b>	<b>5,694</b>	<b>4,369</b>	<b>▲ 1,325</b>	<b>▲ 23.3%</b>

※数値は当社グループの保有権益ベース

※12月決算につき、1-9月の数量

※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

## 販売数量見通し

## ■ 燃料油セグメント

[千KL,%]

	5/14公表	今回見通し	増減	
ガソリン	12,370	12,380	+10	+0.1%
ナフサ	300	560	+260	+86.7%
ジェット燃料	2,570	2,420	▲ 150	▲ 5.8%
灯油	3,430	3,430	—	—
軽油	9,850	10,010	+160	+1.6%
A重油	3,060	3,080	+20	+0.7%
C重油	2,070	1,820	▲ 250	▲ 12.1%
<b>国内燃料油販売計</b>	<b>33,650</b>	<b>33,700</b>	<b>+50</b>	<b>+0.1%</b>
輸出燃料油	7,360	6,670	▲ 690	▲ 9.4%
<b>燃料油販売計</b>	<b>41,010</b>	<b>40,370</b>	<b>▲ 640</b>	<b>▲ 1.6%</b>

※ジェット燃料及びC重油に含むボンド輸出数量は輸出燃料油に含めて表示

# 販売数量見通し

## ■ 基礎化学品セグメント

[千t,%]

	5/14公表	今回見通し	増減	
基礎化学品	3,200	3,140	▲ 60	▲ 1.9%

## ■ 高機能材セグメント

[千KL,千t,%]

	5/14公表	今回見通し	増減	
潤滑油	1,135	1,090	▲ 45	▲ 4.0%
機能化学品	570	480	▲ 90	▲ 15.8%

※潤滑油は海外ライセンス販売先を含む

## ■ 電力・再生可能エネルギーセグメント

[百万kwh,%]

	5/14公表	今回見通し	増減	
電力小売販売量	1,840	1,740	▲ 100	▲ 5.4%

## 生産数量見通し

## ■ 資源セグメント (ガス・石油生産量)

[千BOED,%]

	5/14公表	今回見通し	増減	
ベトナム	13.0	13.4	+0.4	+3.0%
ノルウェー	12.4	12.9	+0.5	+4.1%
生産量合計 (千BOED)	25.4	26.3	+0.9	+3.6%
生産量合計 (千BOE)	9,303	9,630	+327	+3.5%

※数値は資源開発子会社の保有権益、持分割合ベース

※12月決算につき、1-12月の数量。24年度は、ノルウェーは1-12月の数量、ベトナムは決算月変更により4-3月の数量

## ■ 資源セグメント (石炭生産量)

[千t,%]

	5/14公表	今回見通し	増減	
エンシャム	—	—	—	—
マッセルブルック	—	—	—	—
ボガブライ	5,680	5,800	+120	+2.1%
<b>豪州石炭 合計</b>	<b>5,680</b>	<b>5,800</b>	<b>+120</b>	<b>+2.1%</b>

※数値は当社グループの保有権益ベース

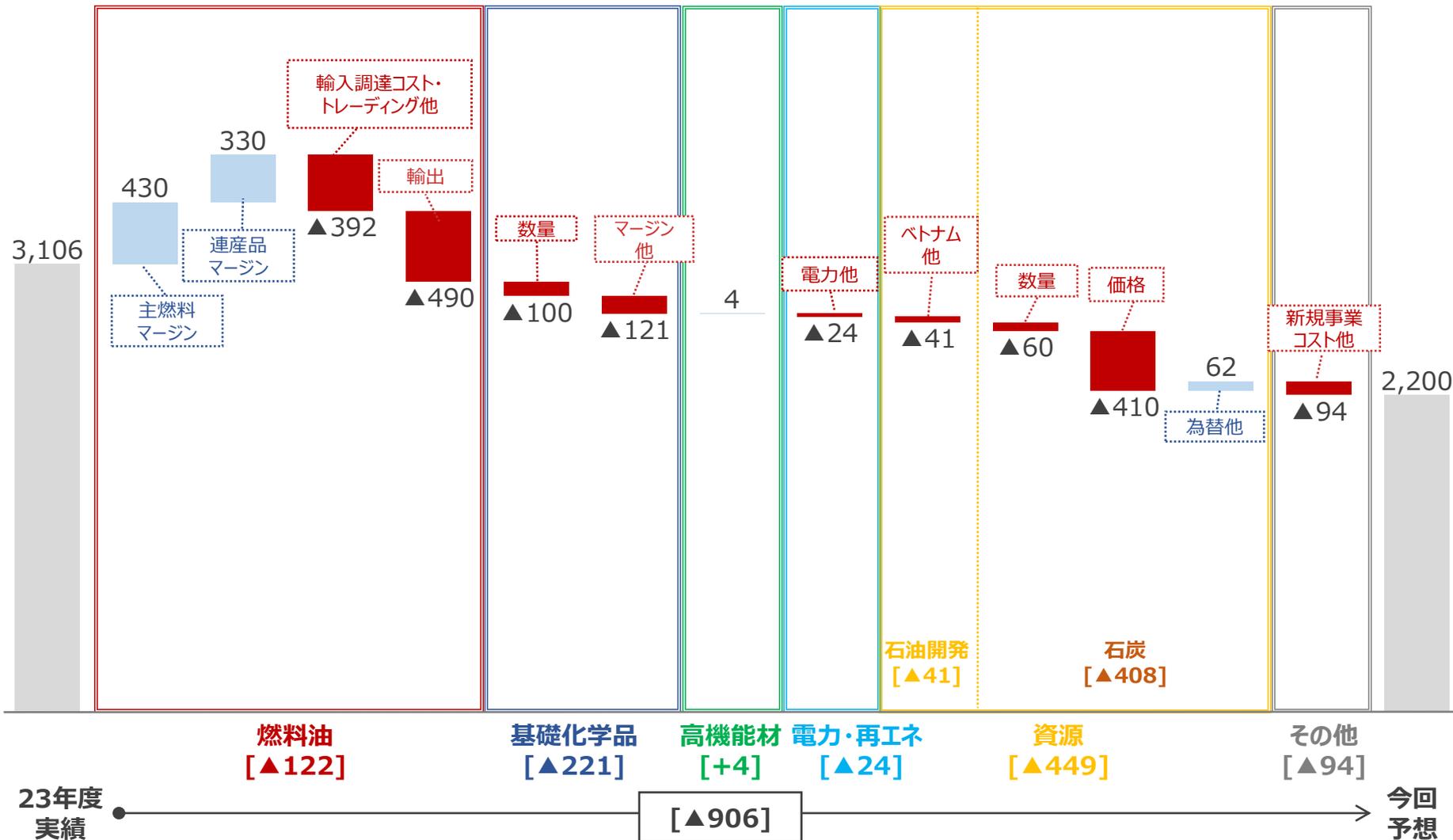
※12月決算につき、1-12月の数量

※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

# セグメント別情報

## ■ 営業利益 + 持分法投資損益増減分析 (在庫影響除き、予想前年対比)

[億円]

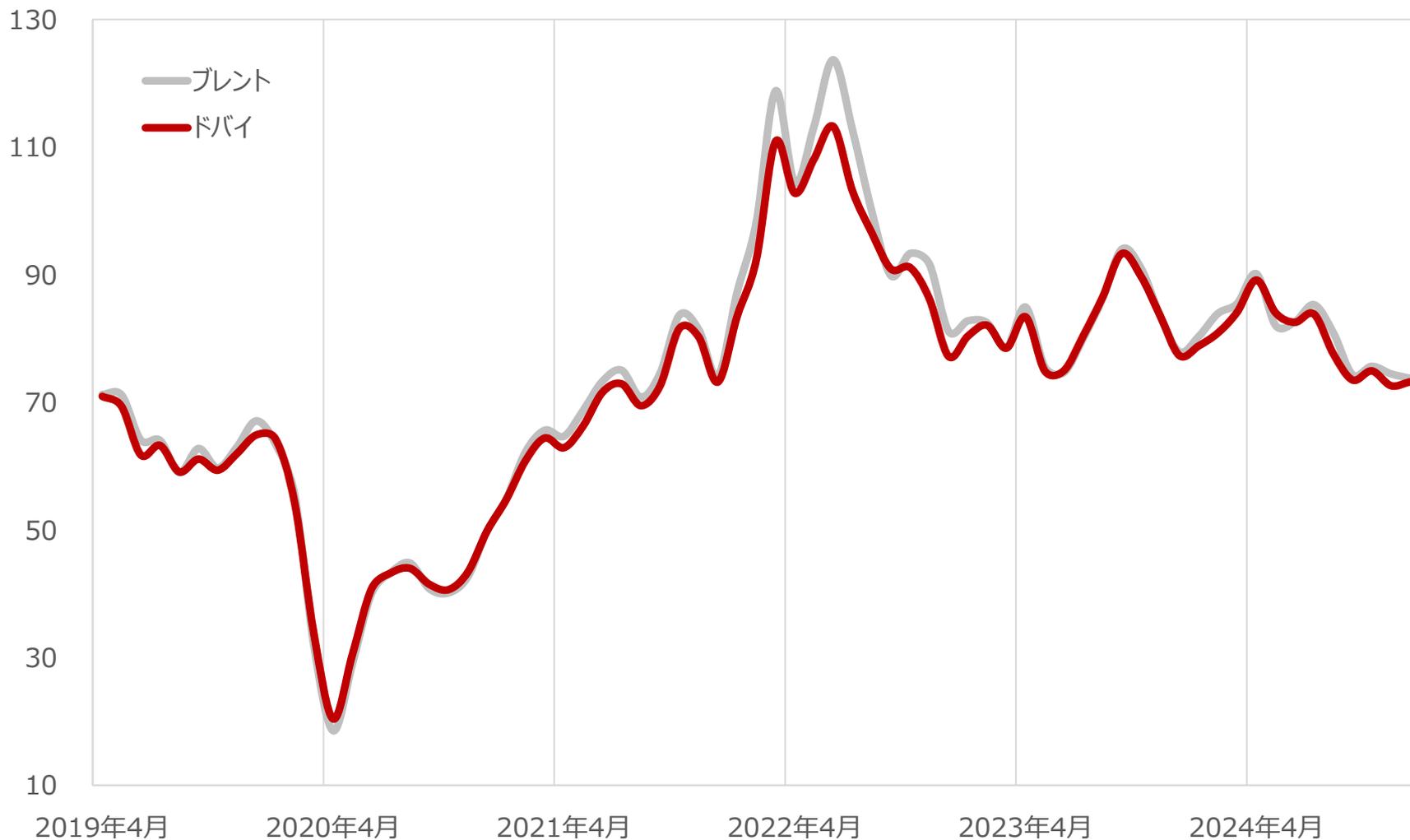


23年度  
実績

今回  
予想

# 原油価格（ドバイ原油・ブレント原油）

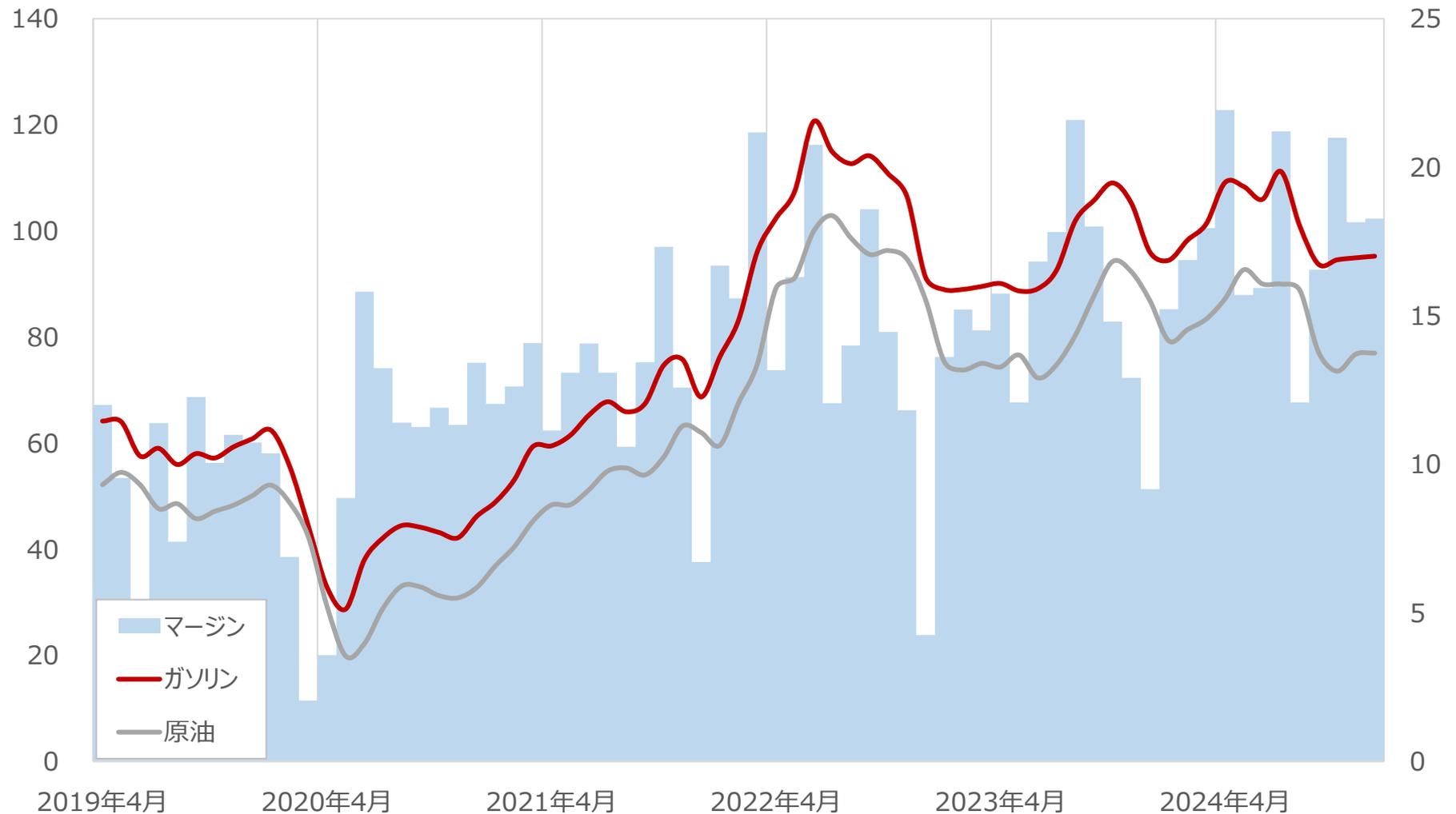
[USD/バレル]



# ガソリン（国内スポット価格 - 原油）

[原油・製品：円/リットル]

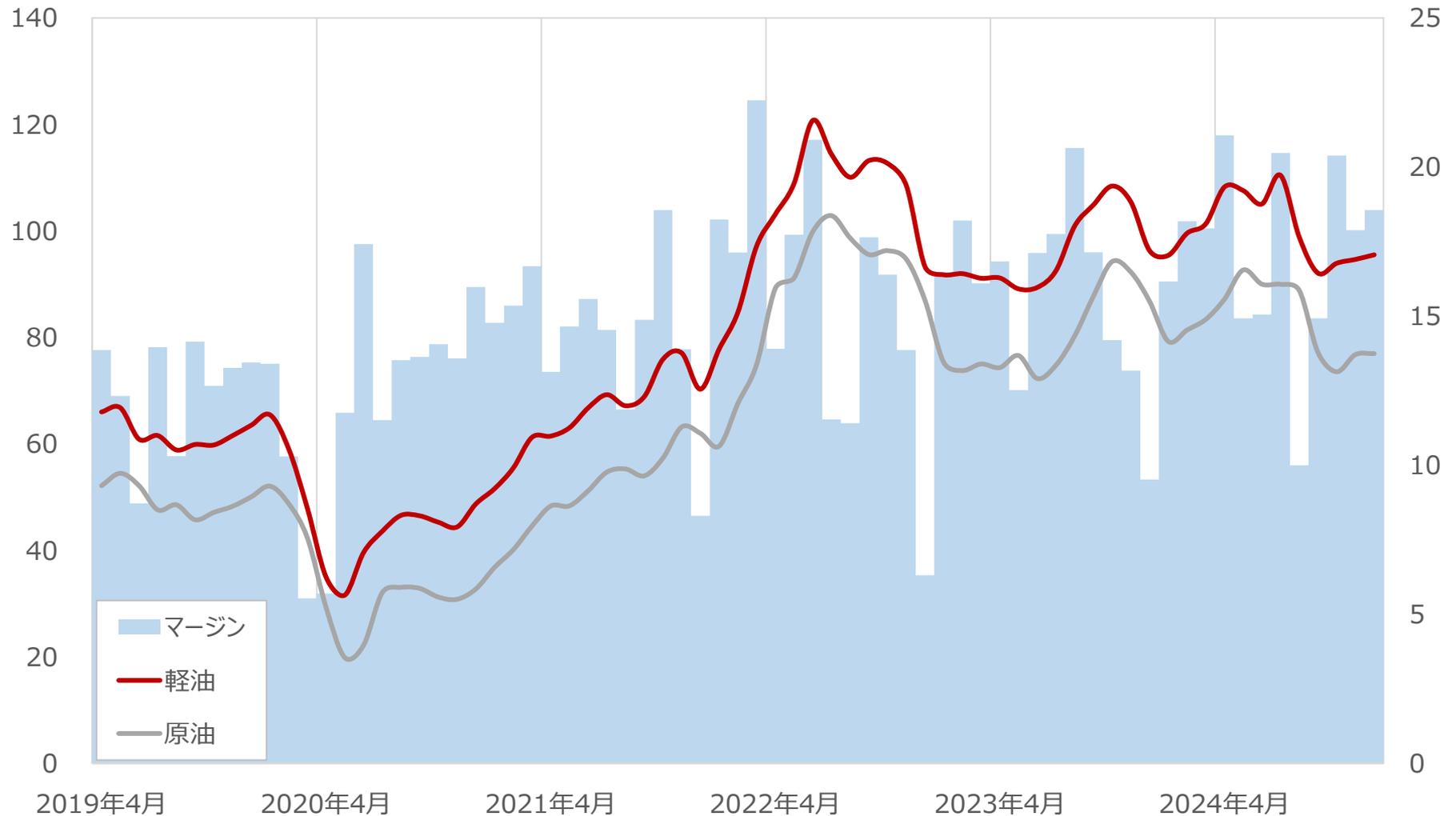
[マージン：円/リットル]



# 軽油（国内スポット価格 - 原油）

[原油・製品：円/リットル]

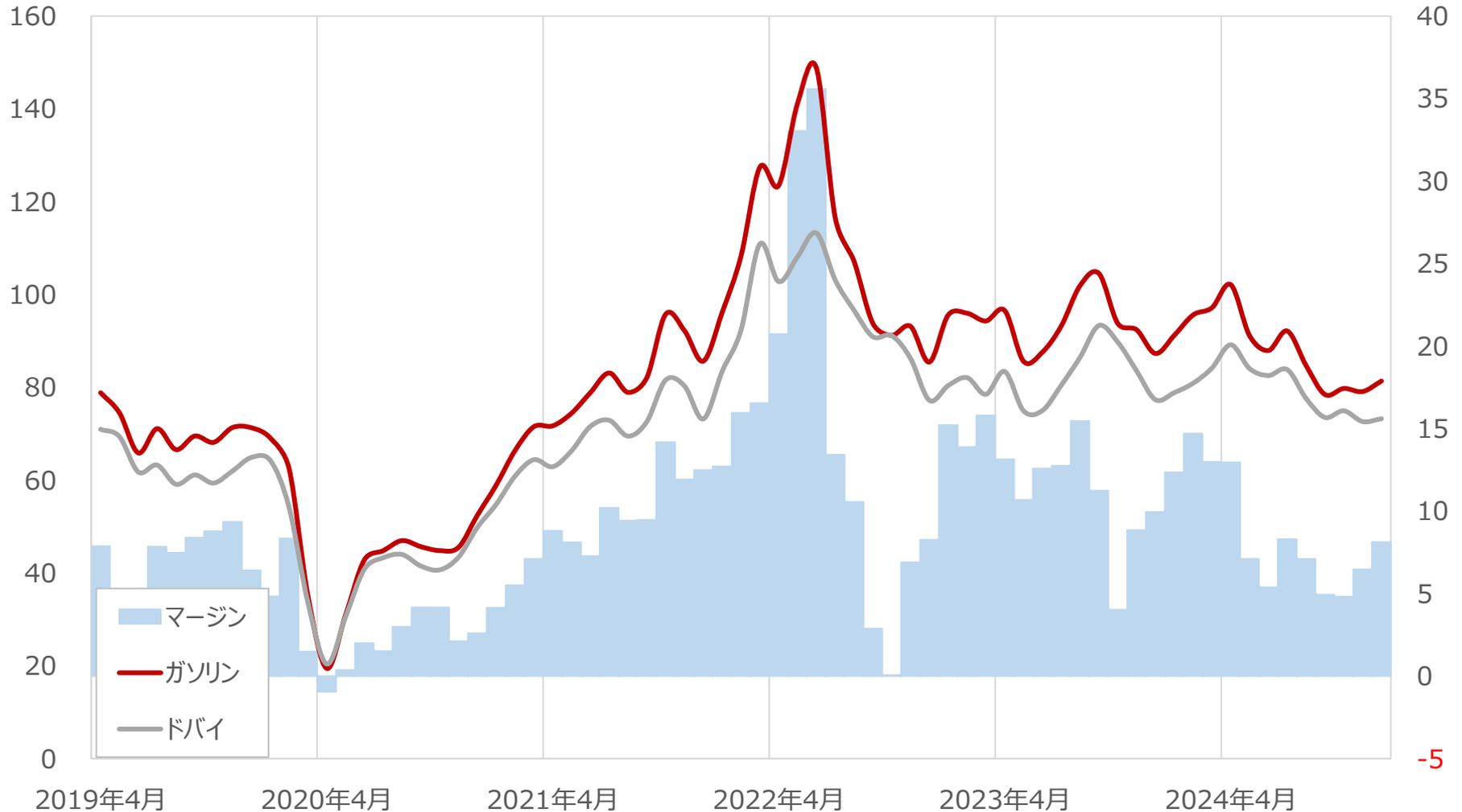
[マージン：円/リットル]



# ガソリン（シンガポールスポット価格 - ドバイ原油）

[原油・製品：USD/バレル]

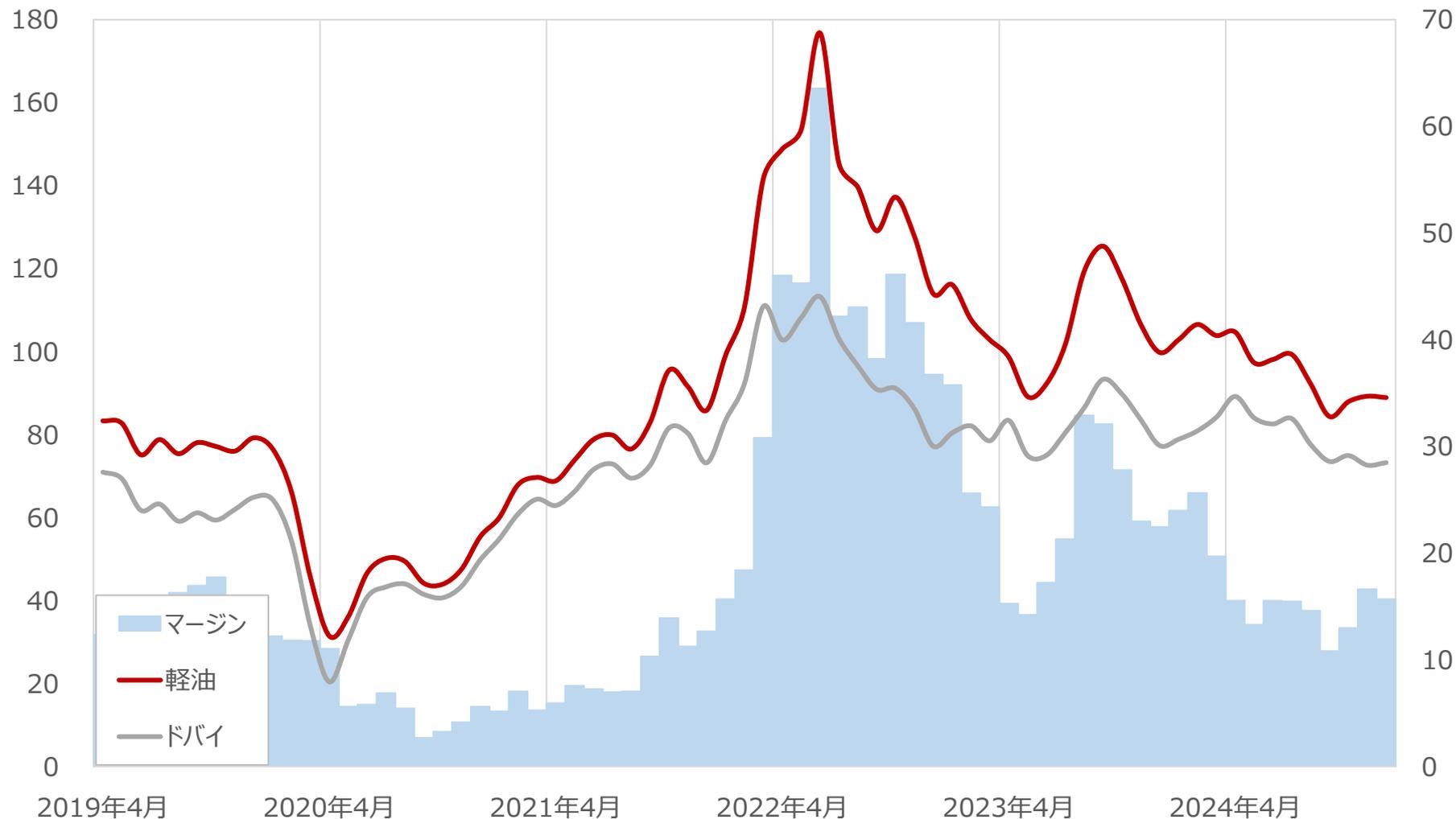
[マージン：USD/バレル]



# 軽油（シンガポールスポット価格 - ドバイ原油）

[原油・製品 : USD/バレル]

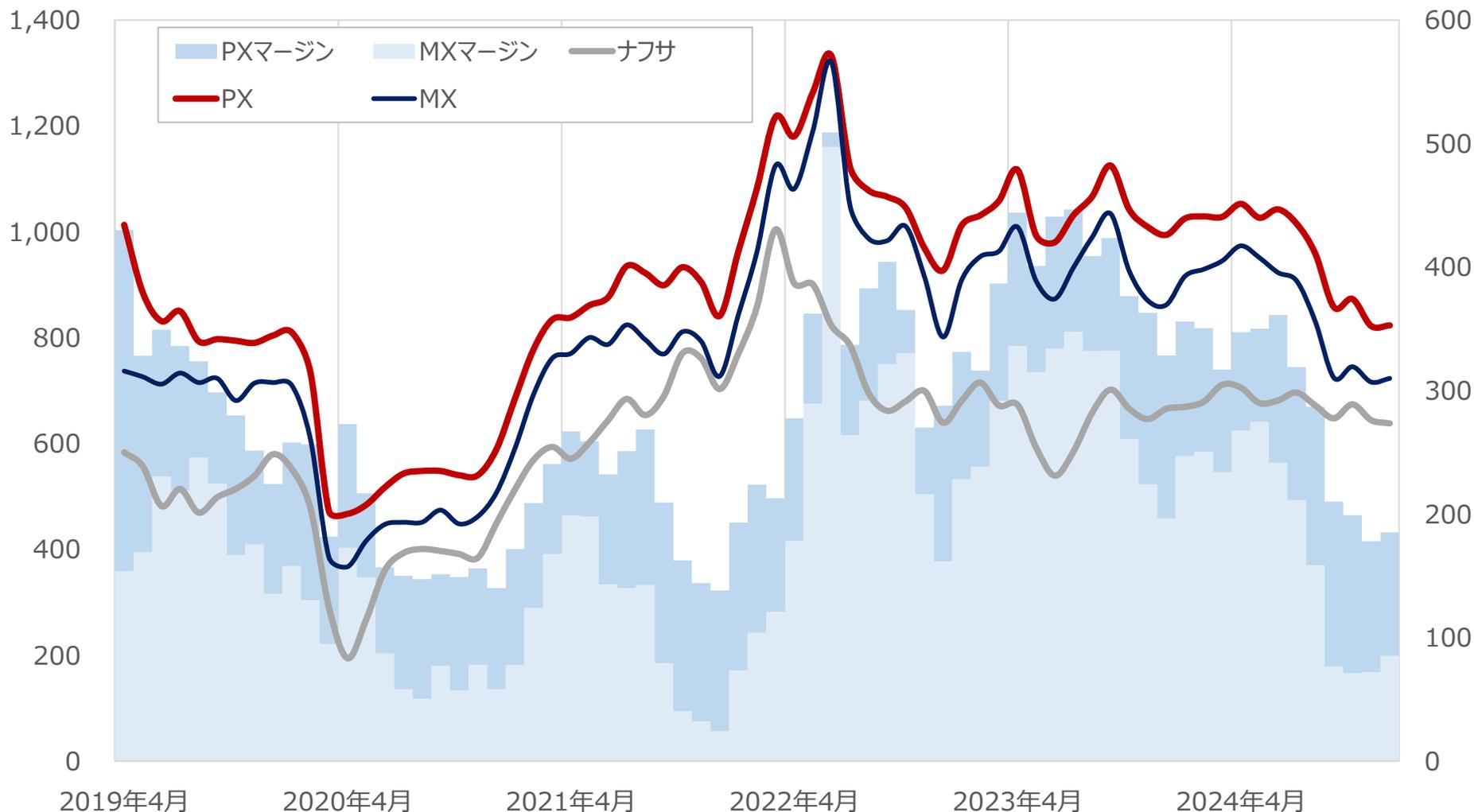
[マージン : USD/バレル]



# パラキシレン・ミックスキシレン - ナフサ

[ナフサ・製品 : USD/トン]

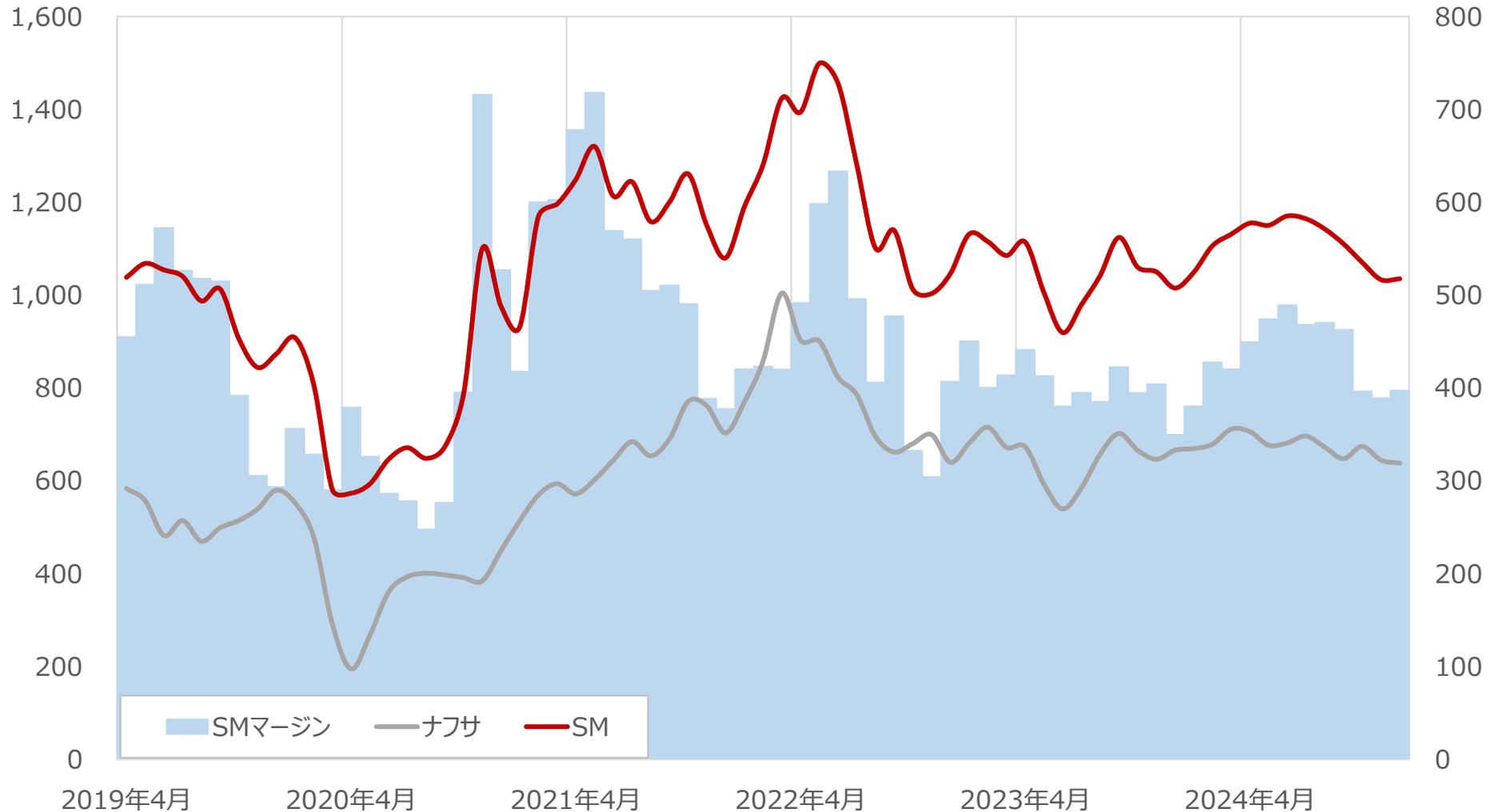
[マージン : USD/トン]



# スチレンモノマー - ナフサ

[ナフサ・製品 : USD/トン]

[マージン : USD/トン]



# オペレーショナルデータ

## ■ 製油所稼働率

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 3Q
78%	77%	83%	78%	71% (75%)

※稼働率は定修を含むBCDベース

※山口製油所（12.0万BBL/D）は24年3月に原油処理を停止したが、公称能力の引き下げは7月以降。括弧内は補正後の実質稼働率

## ■ SS数

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 3Q
6,311	6,216	6,136	5,986	5,935

## 当社グループの概要

2023年度実績  
または2024年3月末時点

燃料油	高機能材
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油処理能力 82.5万バレル /日 ※1,2)</li> <li>・国内燃料油販売量 3,400万KL /年※3)</li> <li>・SS数 6,000カ所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔潤滑油、機能化学品、電子材料、機能舗装材（高機能アスファルト）、農薬・機能性飼料、リチウムイオン電池材料〕</li> <li>・潤滑油販売量 110万KL /年</li> <li>・エンジニアリングプラスチック(販売数量) 15万t /年</li> <li>・有機EL材料(生産能力) 26t /年</li> </ul>
基礎化学品	
<p style="text-align: right;">(生産能力 ※2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エチレン 100万t /年</li> <li>・パラキシレン 84万t /年</li> <li>・ミックスキシレン 69万t /年</li> <li>・スチレンモノマー 79万t /年</li> </ul>	
電力・再生可能エネルギー	資源
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電能力 194万kW</li> <li>- うち 再生可能エネルギー 83万kW</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油生産量 2.5万バレル /日</li> <li>・一般炭生産量 570万t /年※4)</li> </ul>

※1) 24年7月以降の能力。山口製油所（12.0万BBL/D）は24年3月をもって原油処理を停止。  
石油製品取引契約を締結する富士石油株式会社の原油処理能力を加えると96.8万バレル/日

※2) ニソンの能力は含まない

※3) ボンドジェット燃料及びボンドC重油は輸出燃料油（国内燃料油販売量に含まず）に計上

※4) 24年度業績見通しの数値。マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は23年8月に売却

## 燃料油セグメント

[万BBL/D]

運営会社	製油所	原油処理能力	重油直接 脱硫装置 (RH)	流動接触 分解装置 (FCC)	重油流動 接触分解装置 (RFCC)	重質油 熱分解装置 (FLG)	備考 (出資比率)
出光興産	<b>国内</b> 北海道製油所	14.0	4.2		3.3		
	千葉事業所	19.5	4.0		4.5		
	愛知事業所	16.5	6.0		5.0		
昭和四日市石油	四日市製油所	25.5	4.5		6.1		75.0%
東亜石油	京浜製油所	7.0		4.2		2.7	100.0%
	<b>合計</b>	<b>82.5</b>	<b>18.7</b>	<b>4.2</b>	<b>18.9</b>	<b>2.7</b>	
Nghì Son Refinery and Petrochemical LLC	<b>海外</b> ニソン製油所  (ベトナムタインホア省)	20.0	10.5		8.0		35.1%
	<b>合計</b>	<b>20.0</b>	<b>10.5</b>		<b>8.0</b>		

※1) 各製油所の装置能力は出資比率を考慮しないベース

※2) 山口製油所(12.0万BBL/D)は24年3月をもって原油処理を停止

※3) 上記は24年9月以降の能力

## 基礎化学品セグメント

[千トン/年]

運営会社	工場	主要化学製品生産能力				備考 (出資比率)
		オレフィン	アロマ			
		エチレン	パラキシレン	ミックスキシレン	スチレンモノマー	
出光興産	国内 千葉事業所	374	265		210	
	愛知事業所		357	170		
	徳山事業所	623	214		340	
昭和四日市石油	四日市製油所			518		75.0%
	<b>合計</b>	<b>997</b>	<b>836</b>	<b>688</b>	<b>550</b>	
Idemitsu SM (Malaysia) Sdn. Bhd.	海外 パシルグダン事業所 (マレーシアジョホール州)				240	70.0%
	Nghi Son Refinery and Petrochemical LLC	ニソン製油所 (ベトナムタインホア省)		700		35.1%
	<b>合計</b>		<b>700</b>		<b>240</b>	

※1) 装置能力は出資比率を考慮しないベース

※2) 山口製油所(12.0万BBL/D)は24年3月をもって原油処理を停止。

※3) 上記は24年7月以降の能力

# 高性能材セグメント (1/2)

## 潤滑油

- ◆製品群
  - ・自動車向け潤滑油（エンジンオイル等）
  - ・グリース
  - ・工業用潤滑油（油圧作動油・切削油等）等
- ◆自動車向け潤滑油を中心に、グローバルに事業を展開
  - ・世界シェア8位
  - ・海外売上比率50%超
- ◆研究開発拠点
  - ・日本国内および海外(米国、中国他)
- ◆潤滑油グローバルネットワーク



- ・世界28ヶ国の製造・販売・研究開発ネットワーク
- ・既存設備の増強、新規拠点開発を推進

## 機能化学品

- ◆製品群
  - エンジニアリングプラスチック、粘接着基材、誘導品、溶剤、機能材料
- ◆主な製品と用途、特徴
  - エンジニアリングプラスチック
    - (製品) PC/ポリカーボネート樹脂
    - (用途) スマートフォンやレンズ、自動車照明用等
    - (特徴) プラスチック中最高の耐衝撃性。透明性や表明光沢、難燃性にも優れる
  - (製品) SPS/シンジオタクチックポリスチレン樹脂
    - (用途) 自動車電装部品、調理家電等
    - (特徴) 軽量である他、耐熱性、電気特性、耐薬品性、耐加水分解性に優れる



デイトタイムランニングライト (DRL)



自動車部品

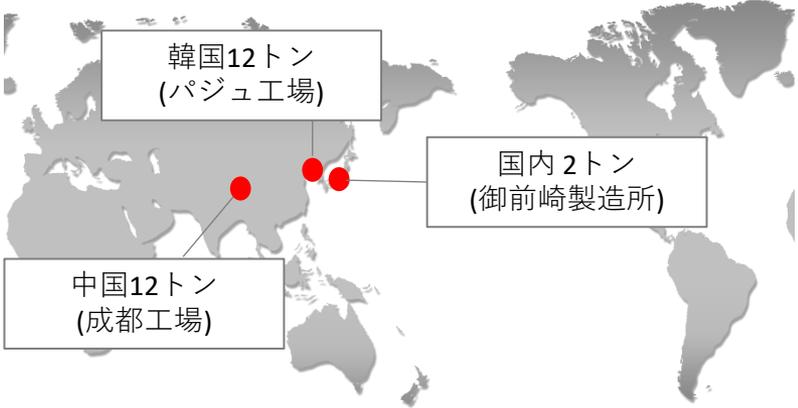
### 粘接着基材

- (製品) 水添石油樹脂
- (用途) ホットメルト接着剤の粘着付与剤（衛生材分野）



オムツ等衛生材

# 高性能材セグメント (2/2)

電子材料	機能舗装材 (高性能アスファルト)
<p>◆製品群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンやテレビなどに搭載される有機ELディスプレイ用材料</li> <li>・ディスプレイ用半導体材料 等</li> </ul> <p>◆有機EL製造・カスタマーサポート拠点</p>  <p>韓国12トン (パジュ工場)</p> <p>国内2トン (御前崎製造所)</p> <p>中国12トン (成都工場)</p> <p>・アジア地域での更なる有機EL材料事業の拡大に向け、工場・カスタマーサポート拠点を置き、ディスプレイメーカー等との関係強化に取り組んでいる</p> <p>・ディスプレイ製品の省エネ化・画質向上が期待される酸化物半導体材料の開発、事業化を進める</p>	<p>◆最先端の技術開発に取り組むアスファルトメーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル、長寿命化、カーボンニュートラル</li> </ul> <p>◆製品群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土木/建築用アスファルト</li> <li>・工業用アスファルト</li> <li>・道路用高性能アスファルト</li> </ul>  <p>東大寺</p> <p>メイブライト (道路用高性能アスファルト)</p> <p>農薬・機能性飼料</p> <p>◆製品群</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学農薬 (ダコニール1000※1等)</li> <li>・生物農薬</li> <li>・機能性飼料 (ルミナツプ※2等)</li> </ul>  <p>ダコニール 1000</p> <p>ルミナツプ</p>

※1 様々な作物、病害に対して安定した効果を示し、生物への影響が少ない保護殺菌剤  
 ※2 牛のげっぐに含まれるメタンガスを低減する効果を持つカシューナツツ殻液を含む畜産飼料

# 電力・再生可能エネルギーセグメント

## 電力

区分	発電所	運営会社	出資比率 (%)	発電能力* (万KW)
太陽光	国内（全国34ヶ所）	出光興産他	—	18.7
バイオマス	京浜バイオマス発電所（神奈川県）	京浜バイオマスパワー	100	4.9
	土佐発電所（高知県）	土佐グリーンパワー	50	0.3
	福井グリーンパワー大野発電所（福井県）	福井グリーンパワー	10	0.1
	出光徳山バイオマス発電所（山口県）	出光興産	—	5.0
風力	六ヶ所村二又風力発電所（青森県）	二又風力開発	40	2.0
地熱	滝上バイナリー発電所（大分県）※	出光大分地熱	100	0.5
再エネ（国内）				31.5
火力	扇島パワーステーション（神奈川県）	扇島パワー	25	30.5
	東亜石油水江発電所（神奈川県）	東亜石油	100	27.6
	愛知事業所第3号発電設備（愛知県）	出光興産	—	25.0
<b>国内</b>				<b>114.9</b>
太陽光	海外（北米、ベトナムなど）	—	—	52.1
火力	海外	—	—	27.1
<b>海外</b>				<b>79.2</b>
<b>合計</b>				<b>194.1</b>

\*発電能力は当社の出資比率を加味

- ◆再生可能エネルギーの発電能力として83.6万KW保有（国内：31.5万kW、海外：52.1万kW）
- ◆自社電源(火力)を活用し、卸売り、高圧・低圧の小売りを展開

## ソーラー

- ◆22年6月にパネル製造は終了
- ◆太陽光発電所の設計・施工・メンテナンス及びリサイクルを担うシステムインテグレーターへ転換

# 資源セグメント（ガス・石油開発）

## 事業概要

- ベトナムおよびノルウェーにおいて原油・ガスの生産・販売を行う
- 低炭素社会への移行期において重要なエネルギーである天然ガスへのシフトを目指し、ベトナムをはじめとする東南アジア地域においてガス田探鉱・開発を行う

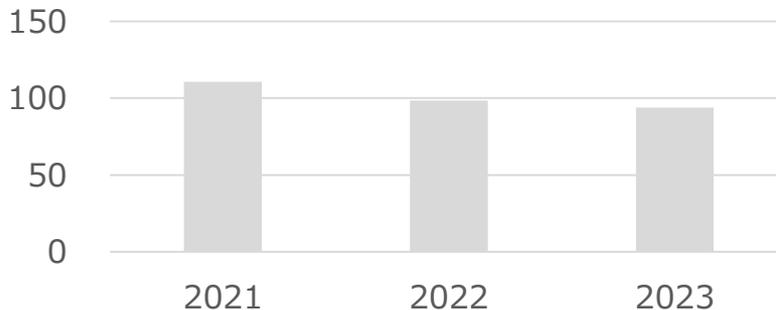
### ◆生産油ガス田と販売先

	油ガス田名称	権益保有会社	販売地域
ベトナム	サオバン・ダイグエット	Idemitsu Gas Production (Vietnam) Co.,Ltd. ※保有比率43.08%	アジア
ノルウェー	スノーレ	INPEX Idemitsu Norge AS	欧州
	トルディス/ビッグディス		
	フラム		
	Hノルド		
	ビュールディング		
	ベガ		
	ドゥーヴァ		

## 生産油ガス田の埋蔵量

### ◆埋蔵量※1,2

[百万BOE]



※1ノルウェー油田群およびベトナムガス田における埋蔵量の合計

※2埋蔵量は当社の権益比率および持分比率を反映した数値

### ◆埋蔵量評価基準

- 当社の埋蔵量評価はPRMS (Petroleum Resources Management System) 基準に準拠
- PRMS基準は、石油技術者協会 (Society of Petroleum Engineers : SPE), 世界石油会議 (World Petroleum Congress : WPC), 米国石油地質技術者協会 (American Association of Petroleum Geologists : AAPG) 及び石油評価技術者協会 (Society of Petroleum Evaluation Engineers : SPEE) の4団体によって共同で策定され、国際基準として認識されている
- PRMS基準において定義されている埋蔵量 (Reserves) は、①確認、②推定、③予想埋蔵量に区分されるが、当社の埋蔵量評価は、確認および推定埋蔵量の合計値を示す

### ◆確認埋蔵量とは

- 確認埋蔵量は石油・ガス業界で一般的に用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的と認識される
- 確認埋蔵量とは、地質的・工学的データに基づき現在の経済条件及び操業条件の下で商業的に合理的確実性をもって回収することが可能である石油・ガスの数量とされる
- 確率的手法を用いる場合、確認埋蔵量を回収できる確率が90%以上であるとされる

### ◆推定埋蔵量とは

- 推定埋蔵量とは、地質的・工学的データに基づき確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される石油・ガスの数量
- 確率的手法を用いる場合、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合算した数量を回収できる確率が50%以上であるとされる

# 資源セグメント（石炭）

事業概要	事業構造改革
<p>[事業戦略]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆競争力の高いボガブライ鉱山の活用による安定供給と収益最大化</li> <li>◆出光グリーンエネルギーペレット等の低炭素ソリューション事業を推進</li> <li>◆長年豪州で培ってきた経営資源を活用し、レアメタル、再生可能エネルギー、水素・アンモニア等の新規事業への移行を推進</li> </ul> <p>1. 鉱山での事業</p> <p>オーストラリアで石炭鉱山(ボカブライ鉱山)を保有し、生産から販売まで一貫したサプライチェーンを構築、主に日本向けに高品位な石炭を安定供給</p> <p>[ボガブライ鉱山の概要]</p> <p>所在地：ニューサウスウェールズ州</p> <p>炭質：一般炭（約8割） 原料炭(SS/PCI)（約2割）</p> <p>出荷港：ニューキャッスル港（約360km、列車輸送）</p> <p>※マッセルブルック鉱山は23年3月に終掘、エンシャム鉱山は売却済</p>	<p>◆出光グリーンエネルギーペレット（ブラックペレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石炭火力発電所の燃料をブラックペレットに置き換えることで、CO<sub>2</sub>排出量を減らすことが可能</li> <li>・石炭燃料の20～30%をブラックペレットに置き換える混焼実験に成功</li> <li>・24年度にベトナムで年産12万tの商業プラントを稼働予定。2030年には300万tの供給体制構築を目指す</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="994 739 1367 1039">  </div> <div data-bbox="1396 739 1767 1039">  <p style="color: red; text-align: center;">ベトナム ● 商業プラント</p> </div> </div> <p>◆豪州新規事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レアメタル：豪州でバナジウム事業を推進するVecco社へ投資</li> <li>・再エネ：豪州 マッセルブルック石炭鉱山採掘跡地で揚水型水力発電事業の事業化検証</li> </ul>

## 見通しに関する注意事項

---

本資料に記載されている当社の業績見通し、戦略、経営方針などのうち、歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいて作成しております。

実際の業績に影響を与え得る要素には、経済情勢、原油価格、石油製品の需要動向、市況、為替レートおよび金利など、潜在的风险や不確実性があるものを含んでおります。

従いまして、実際の業績は、これらの重要な要素の変動により、業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。